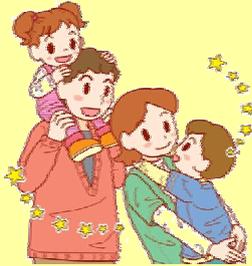


発達のご案内になるこどもの 家庭療育講座 ～第5回～



子どものこころの診療拠点病院推進室 ペアレントサポート研究会 陽なた

本日のメニュー

①学習会

『伝え上手になろう』
『教え上手になろう』

②グループワーク

記録の確認、課題のみなおし

伝え上手になろう！

前回の講義では、子どものよい行動を引き出す方法として、周囲の環境を整える工夫についてご紹介しました。

実は、声かけの仕方をちょっと見直すだけでも、子どもが指示を理解しやすくなり、よい行動を行いやすくなります。

今回は、子どもにわかりやすい、伝わりやすい声かけについて考えていきましょう。

わかりやすい声かけ

**声かけや指示がうまく伝わらないときの
チェックポイント** ※チェックしてみよう

- 声かけを聞いていないのでは？
- 声かけが理解できていないのでは？
- 声かけは理解できるけれど、興味がなかったり、やりたくないのでは？

※伝わらない理由によって、違った対応が考えられます。

✓ 声かけを聞いていない

注意を引きつけてから

① タイミングをはかる。

何かに夢中になっているときや、パニックの最中は声が届きにくい。

② 注意を引いてから話す。

「今からお話します」「〇〇ちゃん」と言ったり、子どもの肩を叩いてから話す。



③ 目を引くようなものを用意する。

絵カードや文字など視覚的な手がかりを使う。



✓ 声かけが理解できない

① 具体的な言葉を使ってズバツと言う。

② 前もって伝えておく。

③ 短い指示を一つずつ伝える。

④ 子どもの理解に合わせて、指さし・視覚シンボル・写真・絵などを使う。



☑ 興味がない、やりたくない

- ① 指示に従った後の結果(ほめ方やごほうび)を工夫する。
- ② 子どもが「できる」と思えるレベル(量や難易度)の課題にする。
- ③ 必ず成功できるように手助けする。
失敗がいやで活動に取組めない場合がある。
- ④ 課題を工夫して興味ひきつける。
声かけの仕方だけでなく課題そのものにも工夫を加える。



興味ややる気を高める工夫

ぼくが・わたしが決める！

いくつかの**選択肢を用意し、子ども自身に好きな活動やものを選んで**もらいます。自分で選ぶと、同じ活動やものでも、よりやる気が出たり、もらったときにより嬉しかったりします。



約束の上手な伝え方

- ① 簡単で、すぐに守れる約束から始める。
- ② 途中で確認するなど、守れるよう手助けする。
例：「お店のエスカレーターで遊ばない」という約束を①家を出る前、②お店の駐車場、③店内に入るときに確認する。
- ③ 守れて当たり前ではなく、守れたらいいことがあるようにする。
例：静かに電車に乗れたら、駅でスタンプが押せる。
- ④ 「約束」する内容を子どもと相談して決める。

まとめ：伝え上手

- ① 声かけや指示がうまく伝わらないときは、聞いていない、理解できない、興味がないなどの場合がある。
- ② 声かけをする前、声かけの仕方、声かけの内容、声かけに従った後の対応を工夫してみる。
- ③ 約束は、「約束が守れた」という成功体験を積み重ねることから始める。

問い 理解しやすい声かけ

📖 ワークブック 10 ページ

それぞれのお子さんに合わせた声かけを考えてみましょう。

- ① 帰宅後、玄関で。
「靴はちゃんと脱ぎなさい！」
- ② お風呂あがりに体をふかず、きょうだいと遊んでいる。
「体が濡れているじゃない！何やってるの！」

教え上手になろう！

達成感のある教え方のコツ

教え上手になろう！

これまで、子どもがよい行動をしやすくするために、行動を観察すること、行動の前の工夫（環境を整える、伝わりやすい声かけ）、行動の後の工夫（ほめ方）を学ぶことができました。

今回は、行動そのものに働きかける方法について考えていきましょう。

子どもに新しい行動やよい行動を教えるためのコツをご紹介します。

援助が必要なポイントは？

実際に教えていく前に、子どもがどこでつまづいているのかを見極めることが大切です。

子どもに教えたい一連の行動を分解し、細かい行動の要素に分けて考えてみましょう。

行動を分解しよう①

複雑な行動も細かな要素から成り立っています

行動には細かい手順があります。子どもに教える行動が、どのような手順で成り立っているのか、行動をいくつかの要素に分けて考えてみましょう。

要素の分け方に正解はありません。同じ行動でも、ひとり一人にあった分け方があります。

行動を分解しよう②

行動を分解するメリット

- ① どのポイントで援助すればよいか分かりやすくなる。
- ② 子どもにとって、どの部分が難しいのかがわかりやすくなる。
- ③ 難しい部分に合わせて、援助の種類や程度を変えることができる。

たとえば「手を洗う」

①	蛇口をひねって水をだす
②	石けんをつける
③	泡立てる
④	両手をこすって手をあらう
⑤	石けんを洗い流す
⑥	水をとめる
⑦	タオルでふく

援助のポイントがわかる

○	蛇口をひねって水を出す	
×	石けんをつける	→ 固形石けんを液体石けんに
○	泡立てる	
○	両手をこすって手を洗う	
○	石けんを洗い流す	
×	水をとめる	→ 「とめようね」と言って蛇口を指さず
○	タオルでふく	

問い 行動を分解しよう

では、練習です。
「カップラーメンを作る」
という行動を分解してみ
ましょう。

いくつかの要素に分解
するかは自由です。
普段の自分の行動を
ふりかえて考えて
みてください。

①	外袋をはがす。
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	



問い 行動を分解しよう

「コンビニでチョコレートを買う」という行動を分
解してみましょう。

①	店に入る。
②	
③	
④	
⑤	



いくつかの行動に分ける
かはあなたの自由です。
普段の行動を思い出し
てみましょう。



分解の微調整

子どもに合わせてできるところは省略・簡略化し、
苦手なところはさらに細かく分解します。

①	外袋をはがす。	合体	①	外袋をはがし、ふたを開ける
②	ふたを開ける。		②	「ロック解除」ボタンを押す。
③	ポットのお湯を注ぐ。	分解	③	「注ぐボタン」を押す。
④	ふたを閉める。		④	ふたを閉める。
⑤	3分待つ。	分解	⑤	タイマーを3分に合わせる。
⑥	ふたを取る。	変更	⑥	パズルをしながら待つ。
⑦	箸でかき混ぜる。		⑦	タイマーが鳴ったらふたを取る。
			⑧	箸でかき混ぜる。

援助の種類

援助の種類は大きく分けて2つあります

- ① 行動の前の工夫・環境の整備**
取り組みやすいように前もって準備する。
整え上手の工夫がこれにあたります。
- ② 行動の最中の援助・行動の伴走**
子どもがその行動を確実に成功できるように
子どもに寄り添って、直接援助します。
指さし、手をそえる、やってみせるなどの方法
があります。

行動の伴走の種類

- ① 手をそえる・体を誘導
- ② 実際にやってみせる
- ③ 指さし
- ④ 言葉をかける



問い 行動に伴走する援助

たろう君はお母さんに言われて片づけをしよう
としているところです。たろう君がおもちゃ箱に投
げずに片づけられる援助の方法を考えましょう。



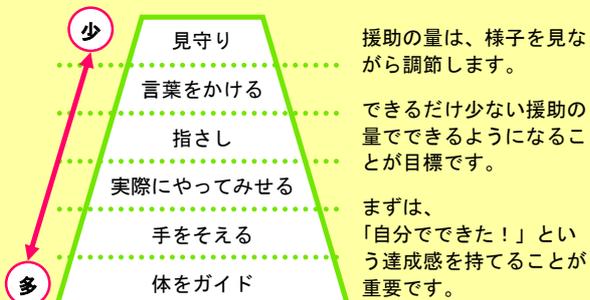
援助の種類

言葉をかける・指さし・実際にやっ
てみせる・手をそえる・体をガイド

それぞれの援助の仕方を
具体的に考えましょう。



行動の伴走のレベル



行動の伴走のコツ

ちょうどよい量の援助

- ① 必要以上の援助をしない。
- ② 少し待って、様子を見てから援助を出す。
- ③ 援助の量は、徐々に減らしていく。

多すぎると、指示待ちになってしまったり、援助にたよりすぎたりしてしまいます。少なすぎると、失敗を繰り返してしまい、自信を失ってしまうかもしれません。子どもの行動に伴走しながら、タイミングを見計らって援助を出しましょう。

援助の減らし方

実際に教えるときには、いろいろな種類の援助を組み合わせ使っていきます。援助を減らしていくときには、急にではなく、子どもの出来具合を見ながら調整していきます。

例：手洗いを教える。



なくしていける援助と残す援助

援助はできるようになっていくごとに、徐々になくしていくという視点をもつことが重要です。援助をなくすことと援助によって得られるメリットのバランスを大事にしましょう。

- ① なくしていける援助
指さし、手をそえるなど行動に伴走する援助。
- ② 残す援助
スケジュールボード、料理カードなど一人であることを補助するための視覚的な援助ツール。

まとめ：教え上手

- ① 援助をするときには、どの部分に援助が必要かをまず探してみる。
- ② 行動を分解することで、援助が必要なポイントを見つけやすくなる。
- ③ 子どもの様子を見ながら、ちょうどいい量の援助をする。
- ④ 子どもが一人でできるようになるように、少しずつ援助の量を減らしていく。

次回のお知らせ ホームワーク

次回：9月9日（水）です。

ホームワーク：

今日考えたてつづきで実践し、結果を記録してみてください。